

図書館だより

— 新入生歓迎号 —

第34号 平成17年4月11日
高松工業高等専門学校図書館
TEL (087) 869-3813
FAX (087) 869-3948

新入生の皆さんへ

図書館長 長谷川 隆



久しぶりに黒澤明の「生きる」という映画を見ました。最近、ある学生と話していたら、感激したと言っていたので、見てみたのです。白黒映画で少し冗長な映画です。昭和27年公開ですから、皆さんが生まれる大分前です。しかし、その学生は、人間は命に限りがあるから生きようと思うのですねと話していました。

主人公の市民課長は30年間無遅刻無欠勤です。男親一人で一人息子を育てあげました。ところが、自分自身が胃ガンで余命がないことを知ると、突然、やり残していた「生」を求め始めます。パチンコもしてみます。バーやキャバレーにも行きます。ストリップ劇場にも足を運びます。しかし、満足できません。ついに市民から要望があった、子どもの遊び場である公園を造ることを最後の仕事と思ひ定めます。主演の志村喬が良かった。あんな顔で迫られたら誰も建設に否は言えないでしょう。しかし、亡くなった主人公を認め悼む者はわずかです。一人息子でさえ親の本当の心を感じてはいません。

この映画を見て、1冊の本を読み返しました。柳田邦男さんの『犠牲一わが、息子・脳死の11日』という本です。この本には、1993年、25歳で自死した、

柳田さんの次男のことが書かれています。「犠牲」とはタルコフスキーの映画の題名でもあるのですが、生前の次男洋二郎さんが、骨髄ドナー（提供者）になる決意をするきっかけになった映画です。洋二郎さんの脳死が宣告された後に、印象的な場面があります。お父さんが病室に入ると、洋二郎さんの血圧や心拍数が上がってくるのです。「からだか語りかけてくる」という表現を柳田さんは使っています。

“生きる”ということのためには、自分のやりたいことをやるということだけでは不十分なのです。世界とどうつながっていくのかが必要なのではないでしょうか。そして、そのつながり方に二つあります。世界のために自分に何ができるかということと、世界の中で自分がどう生かされているかということです。この二つは表裏一体のものです。

人生にはうれしいこと、楽しいこともあるのですが、どうしようもなく悲しいこともあります。それをどのように受け止めたらよいのでしょうか。誰が慰めてくれるのでしょうか。人がどのようにそれを受け止め生きたのかを知る以外に解決する術はないのではないのでしょうか。それを求めて本を読んだり、映画を見たりするのではないのでしょうか。図書館には、もちろん本があります。しかし、CD、ビデオ、DVDもあります。是非、利用してみてください。

ところで、図書館はみんなが利用する場所です。ルールもきちんと守ってください。特に、①貸出期間（2週間）を守ること、②閲覧室では静粛にし、飲食をしないこと、についてはよろしく願います。（はせがわ・たかし）

図書館は宝物庫

機械電気システム工学専攻科修了生
武田 棟一



「図書館」といえば、義務教育課程では「図書館」ではなく「図書室」だったので、この高専に入ったときちょっとびっくりしたことを覚えています。何が違うかといえば別棟にするくらいの蔵書数でしょう。

実際に本校の図書館の内容、情報量の多さに驚嘆したのは、本科の高学年になってからだと思います。専門書の多さが半端ではありません。公立図書館に本を借りに行ったこともありますが、まるで役に立たなかったことを覚えています。低学年のときは、

何でこんなに本が少ないのだろうと感じたこともありましたが、高学年になるにつれて高専の図書館の価値がわかってくるのではないかと考えています。

私の場合は、低学年時に借りていた本はせいぜい1冊600円（文庫小説）くらいのものでした。しかし、高学年になるにつれて専門書を読むことも多くなりました。このくらいになると、1冊が教科書と同じくらいの値段になってきます。こうなると図書館がどんなに有難いか身をもって感じるすることができます。このように考えると図書館は、宝物庫ですよ。知的にも経済的にも。

私は、3月にこの高専を去りますが、今後も多くの宝物と出会っていきたくと思います。（たけだ・むねかず）

チャンスを逃がすな!!

機械工学科卒業生

浦上 貢輔



ブックハンティングをご存知ですか？これは毎年6月と12月の前期、後期中間試験終了日に学生が本を自由に購入することのできる行事です。各クラス単位での参加なので、図書委員でなくても参加できます。つまり、高松高専の学生であれば誰でも参加資格があるのです。

僕は図書委員の仕事を3年間続けて取り組んできました。そして、その間ブックハンティングの様子を見てきました。一応、図書館に置くのにふさわしい本を選ぶことが前提ですが、漫画や雑誌でない限りチェックはかなり甘いのです。加えて、一クラスあたり1万円分の購入費用をもらえるので、たくさん買えます。すごいですね～。

だけど、その日は用事があって行けない。そう思っているアナタ、朗報です。実は、ブックハンティング終了日から一週間以内であれば、図書館指定の本屋でハンティングができます。

図書委員の人は、クラスメイトをブックハンティングにどんどん誘ってください。その他の学生もわからない点があれば、図書委員や図書館へどしどし質問してください。皆でジャンジャンバリバリ本を買いましょう。どうかこのチャンスを逃さないてください。卒業生からのオネガイです。

(うらかみ・こうすけ)

図書館に訪ねてみては？

制御情報工学科卒業生

藤田 淳也



高専に入学する前、僕は図書館に行ったことはほとんどなく、小学中学の図書室に行った記憶もありません。ところが、高専の高学年頃から僕は図書館に頻繁に行くようになりました。それは、図書館が改装され、流行雑誌や新作映画のDVD・CD、そして豊富な専門書や一般書籍がそろってきたため、学生の立ち寄りやすい空間へと図書館が変わってきたからでしょう。試験期間中には、いつも遊んでいる高専生もみんなこぞって図書館に自習にきます。落ち着いた雰囲気の中、快適に勉強ができるため試験期間中、図書館はいつも満席だったのをよく覚えてます。試験のことを同級生や先輩に聞いたり、必要な情報を書籍から探したり、また息抜きに雑誌を見てみたりと、時間を有効に活用できるのが図書館の一番のうりです。今年から高専生の仲間入りを果たす入学生のみなさん。そして、図書館にまだ行ったことのない在校生。図書館はいまや皆さんの想像とは異なり、非常に居心地のいい空間を生み出しています。ちょっとした時間に図書館に立ち寄り、高松高専の図書館を堪能してはいかがでしょうか？僕は高学年に図書館の良さを知り、もっと早く気づけばよかったと、卒業してつくづく感じています。このような後悔のないよう、今からでも図書館を訪ねてみてはいかがでしょうか？きっと、何かこれまでとは違う、高松高専ならではの図書館を発見できるはずです。

(ふじた・じゅんや)

新入生への言葉

電気工学科卒業生

松村 優樹



新入生は、これからの長い高専生活において、図書室をうまく利用してもらいたいと思います。

自分は、高専の5年間で図書室に大変御世話になりました。例えば、授業の実験や課題など、レポートに使う資料、専門書等が豊富にあり、とても助かりました。5年生になってからは、卒研の長期貸し出しをよく利用して卒研に役立てています。また、基本情報処理技術者や電検などの各種資格用の参考書も豊富に有ります。これらの書籍はとても高価なので、ぜひ利用してみてください。

他にも、CD、DVD、最近のベストセラーなど種類も豊富なので、色々楽しめます。長期休み前には、20冊まで長期貸し出しが可能なので千ページ読破記などを行うのもいいと思います。

また、年に2回ほど1クラス1万円の予算を貰って好きな本を買えるブックハンティングがあるので進んで参加すると思います。

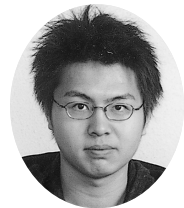
このように、高専の図書室は高専生活において色々役立つので、うまく活用して楽しい高専生活を送ってください。

(まつむら・ゆうき)

新入生に向けて

建設環境工学科卒業生

箕野 健一郎



僕が初めて図書館を利用したのは2年生の後期くらいだったと思う。高専に入ったばかりの頃はもともと本にも興味がなかったし、教室から図書館まで遠かったので利用することはなかった。図書館を利用する転機になったのは、2年生になって教室から図書館まで近くなったことや専門教科の内容が濃くなってきたことなどである。しかし1度行って以来専門書の多さや雑誌まで置いていることなどから利用する機会が増えた。特に専門書の多さは他の図書館では比較にならない豊富さであることを実感した。

僕は専門教科のレポートを休日に仕上げようと家でレポートの作成をしていたときに教科書だけではよく分からないので、家の近くにある図書館に参考書を探しに行き専門書の少なさに絶望したことがあった。

このように我が校の図書館は近くにありながら、高専生にとってなくてはならないとても大きな存在だということ学年が上がるにつれて実感していくと思う。専門書だけでなく、小説、雑誌、DVDなどあらゆるジャンルの作品を取り揃えているので一般知識や専門知識を身に付けるだけでなく、社交の場としても図書館を利用してもらいたいと思う。

(みの・けんいちろう)

WHEN I PAINT MY MASTERPIECE



一般教科数学 高橋 宏明

「吉野葛」（谷崎潤一郎著；新潮文庫他）

「千年の愉楽」（中上健次著；河出文庫他）

「カフカ短編集」「カフカ寓話集」（岩波文庫）

本を読んでいて、ああこの本は本当にすごい、と感じたことはありますか？絵でも音楽でも映画でもそして小説や詩でも、世界の見え方を変えてしまうような途方もない作品に出会ったことはあるでしょうか。

音楽などのこともいつか書く機会があればうれしいのですが、今回は私にとっての「最高の小説」について書きたいと思います。

「吉野葛」は不思議な小説です。読み始めるとしばらく吉野（奈良県、日本有数の桜の名所）の歴史の紹介が続く、やがて作者と友人の吉野旅行の描写になる。このあたりまで読むと、美しい文章だけれどもただの旅行エッセイかなという気がしてくるのですが、やがて友人の回想が始まるあたりから魔法のように作品の風景が一変して、たった数十ページの小説とは信じられないような拡がりとお興行きを持った、遙かな世界が開けてきます。

私はこの小説を二度読んで、二度ともこの同じところ、いわば小説のスイッチが入るところで、自分の足下の地面がずっと消え、周りの風景も消え、かすかな光に包まれた空間に連れて行かれたような、懐かしさとも畏怖ともつかない谷崎以外では味わったことのない感覚に包まれました。

こう書くとファンタジーか何かのように聞こえるかも知れませんが、物語中で不思議なことが起こるわけではなく、そもそもこの小説の中では最後まで事件らしいことすらほとんど起こらないので、そこにあるのは純粋に谷崎潤一郎の言葉の魔力だけです。

谷崎にはこの他にも優れた作品がいくつもあり、例えば「春琴抄」も「吉野葛」に劣らずすごい作品だと思います。

中上健次は（私の意見ですが）日本で谷崎以後に出た最高の作家で、「千年の愉楽」は彼の第二の出発点になった作品です。

「吉野葛」と違って、この作品ではたつぷりと事件が起こります。作品の舞台の「路地」に住む男女の愛憎も暴力も死もふんだんに盛り込まれています。しかし、実際に読んでみると誰にでもすぐにわかるのですが、この作品の真の主人公はそうした事件や物語ではなく、オリウノオバという語り手の語る言葉の圧倒的な力です。（このオリウノオバの語り、私は谷崎の影響を強く感じるのですが、それはもちろん消化吸収されて完全に中上自身のものになっています。）

奔流のように読むものを捕まえて流れてゆく、小説というよりも詩とか音楽に近づいたこの語りの魅力は、私の文章力ではとても伝えることが出来ません。（当たり前ですね。）興味を持った人はぜひ手に取って、最初の部分だけでも読んでみてください。

さて、これまで強調してきたように、「吉野葛」でも「千年の愉楽」でも作品を支えているのは物語の内

容ではなく、言葉というものの持つ強い力でした。けれども、これらの作品を読んでいて、そのクライマックスでは、言葉を超えたものの存在が感じられることがあります。同じように、偉大な絵画の核心には形や色を超えたものが宿り、最高の音楽の最高の瞬間には音を超えるものがあらわれる、という経験がほとんど手に触れられるような生々しさをもって迫ってくることがあります。この経験がない人にはなかなか伝えにくいのですが。

倫社の授業を受けた人は、プラトンの「イデア論」というものを知っていますね。あれは普通は哲学的おとぎ話としか考えられていませんが、優れた作品にふれてこのような最高の瞬間を経験すると、プラトンが「美のイデア」と呼んだのはこのことなのかなという気がします。

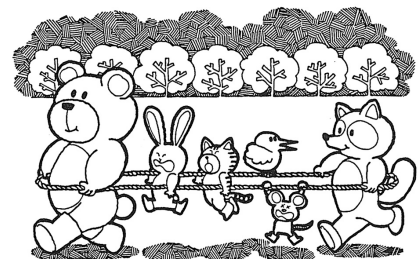
面白いストーリーの小説や耳あたりのよい音楽、といったものは、それはそれで楽しめるのですが、それを遥かに超える経験が確かにあるのです。それを知ると、ひょっとすると引き返せない道に踏み込むことかもしれないけれど、どうでしょう、試してみませんか？

Someday, everything is going to be different,
when I paint my masterpiece.

[いつの日か、すべては変わってしまうだろう。私が傑作を描くときに。] (Bob Dylan)

追記：プラトンから二千年以上も経ったせいか、現代には「美のイデア」とはあまりなじまないタイプの傑作もあります。例えばカフカ。村上春樹の「海辺のカフカ」を読んだあと、ふと思い立って久しぶりにカフカの短編を読んでみて、完全に圧倒されました。ともかくなんと言っているかわからないすごい作品だけれども、普通の「美しさ」とは違いますね。そしてよく読むと谷崎にも中上にもそういう部分があります。

(たかはし・ひろあき)



「大東亜戦争」を 知っていますか

一般教育科歴史 與田 純



『「大東亜戦争」を知っていますか』

倉沢愛子著（講談社現代新書）

今年2005年は、「〇〇周年」の区切りが多い年です。まず思い浮かぶのが、1965年の日韓国交正常化から40周年、1945年の太平洋戦争の終結（あるいは広島・長崎への原爆投下）から60周年にあたることでしょう。そのほかにも、下関条約の締結（1895年）から110周年、ポーツマス講和条約の締結（1905年）から100周年にあたることを知っている人もいるでしょう。しかし、日本が韓国の外交権を接收し保護国化した第二次日韓協約の締結（1905年）から100周年、韓国王妃を日本公使が殺害した閔妃虐殺事件（1895年）からも110周年にあたることを、どれだけの日本人が知っているのでしょうか。例えば第二次日韓協約締結の1905年は韓国併合（1910年）へと道を開いた「屈辱の年」として知らない韓国人はいないそうですが、逆に日本では、韓国を併合したという事実さえ知らない若者も最近増えつつあるといわれています。

「韓流」ブームと呼ばれる空前の韓国ブームが続き、今年を「日韓友好元年」と位置づけている日本ですが、かつて日韓両国の間に生じた不幸な歴史を無視した形

で「友好」を訴えてみても、本当に心から信頼しあった日韓関係を築くことはできません。「歴史問題を処理するドイツと日本の異なった態度は、多くの教訓を与えている。両国の異なった態度によって、隣国から受ける信頼が異なる」という盧武鉉大統領の発言（『四国新聞』2005年2月25日付）を、我々は真摯に受け止めるべきでしょう。

今やアメリカを抜いて日本の最大の貿易相手国となった中国へと目を移してみると、日中両国民の間に横たわる心理的な隔たりはいっそう深刻です。昨夏のサッカー・アジア杯での猛烈な反日騒動は記憶に新しいところですが、中国での世論調査によれば、過半数の中国人は日本に親近感を抱いていないとのこと（『朝日新聞』2004年12月12日付）。その一方、日本でも、昨年の世論調査では中国に「親しみを感じる」と答えた人は過去最低の38%に過ぎず、「親しみを感じない」（58%）が上回りました（『朝日新聞』2004年12月19日付）。このような冷めた日中関係の背後にあるのも、やはり歴史問題です。中国人が日本に親近感を感じない理由として挙げたのが、「中国侵略の歴史を真剣に反省していない」だそうです。

今年は終戦60年の区切りの年。既に日本人の4人に3人が戦後生まれです。それでも真の意味での「戦後」は、まだまだ東アジアには訪れそうにありません。「過去の克服」は、私たち戦後生まれに託された義務でもあるのです。

（よだ・じゅん）

新鮮さを保つために

機械工学科 福井 智史



多くの生物は死ぬまで生長を続けます。例えば植物はその寿命が尽きるまで巨大化を試みます。例えば爬虫類は死ぬまで成長を続けます。しかし哺乳類の場合は違います。あらかじめプログラムされた領域まで成長すると、遺伝子のトリガが外れて成長が止まってしまう。この成長が止まる現象は、未成熟な幼体（子供）が成体（大人）に達したことを示しており、その生物が一個の完成された大人になったことに他なりません。

人間の場合、その生物学上のトリガがいつ発動するかを皆さんは知っていますか。脳の細胞分裂トリガは5歳の頃です。骨の成長トリガが引かれる時期は、皆さんの身長伸びが止まる時期です。その他の体を構成する内臓や器官も中学生くらいにトリガが引かれます。成長が止まったあたりが、生物学的に未成熟な子供が大人になった境界だと言えるでしょう。

では、たった5歳で大人になってしまった脳の具体的な活動を示す人格、知識、思考、あるいは心と呼ばれるものは、いつ大人に達するのでしょうか。日本社会は二十歳が成人ですから、そのあたりが妥当な合意点かもしれません。しかし脳の活動に関してはトリガに達したという感覚に乏しいのも現実です。それは人間が言語というコミュニケーションツールを獲得したために、他人と深く関わる極めて複雑化した社会に存在しているからかもしれません。今まで生きてきた範

囲の世界で成長して大人と呼べる到達点に達したとしても、新しい環境や情報が入って来ると世界そのものが変貌してしまい、その新世界では大人は再び子供になってしまうからです。周囲の環境と情報によって何度も訪れる心の子供から大人への成長の繰り返し、これが脳の活動を大人にさせてくれない原因です。しかし、この繰り返しがあるからこそ5歳で成長が止まってしまった脳が新鮮に保たれ、生きることの新鮮さを失わないでいられるのではないかと思います。

話を交えて私の場合です。「嫌だ消えてしまいたい」とか「死んでやる」と初めて思ったのは5歳の頃。おそらくその時に脳が最初に大人になったのでしょう。それ以来無数の大人と子供を繰り返して来ました。それぞれの時期に大人に成長する切っ掛けとなったのは人との出会いと本との出会いです。人も本も知らない情報の塊です。皆さんもそれらを大切にしましょう。自分に影響を残してくれた人や本は、大人になった後も手放さずに持ち続けてほしいものです。

影響を受けた本リスト。ただし誰にでも良書とは限らない。

「亀馬が行く」司馬遼太郎
 「邪馬台国はなかった」古田武彦
 「幻想の未来」筒井康隆
 「敗れざる者たち」沢木耕太郎
 「深夜特急」沢木耕太郎
 「弾性論」S. P. ティモシェンコ
 「ぼくち」西原理恵子
 「ぼちぼちいこか」

マイクセイラー作 ロバートグロスマン絵
 （ふくい・さとし）

図書館だより原稿

建設環境工学科 及川 康



～詩～ 3年3組 及川 康

ぼくは、
外のプールは、きれいだ。
なぜかというと、
とてもさむいからだ。
だから、
外のプールはきれいだ

知性のかけらも見受けられない何とも安直な文章である。情けない。

私が卒業した小学校で、数年前、タイムカプセルなるものの封印が解かれたのであった。カプセル掘り起こし会場に立ち会うことはできなかったが、当時の同級生君のお母さんが「及川くんの分」ということで、この詩が書かれた原稿用紙1枚を含む小袋を預かって頂き、わざわざ及川の実家宛に送付してくれたという次第である。

へたくそな字が、情けなさをより一層増幅する効果を発揮している。何度も書き直した形跡が確認できる。何度も書き直してこれですか、と当時の自分に問いかけたい。

記憶をたどると、この詩はタイムカプセル用にわざわざ執筆した書き下ろし作品である。つまりは、小学校3年生の自分は、タイムカプセルに封入されることを十分に認識したうえで、このごまである。

この原稿は、「書いた」というよりも、正確には「担任の指示により書かされた」というのが適切であった。文章を書くことがそもそもそれ程好きではない当時の私にとって、「詩」などというかたちで自分の主張や感情をうまく表現できる訳がなかった。いわゆる苦痛というやつである。そういった意味では、当時の苦痛ぶりがうまく表現された作品とも受け取れる。タイトルがズバリ「詩」というあたりからも、その苦痛ぶりを察することができる。

原稿用紙というのは、20字×20行のスペースが設けられているわけで、当然ながら、この詩だけでは広い原稿用紙が埋まる訳がない。ということで、原稿用紙の半分は絵で埋める、という大胆な策が採用されている。むしろ、絵がメインといっても過言ではない。ちなみに、絵の題材は銀河鉄道999とホワイトベースである。ガンダムではなくホワイトベースを描くあたりが自分らしい。

確かに、当時の自分は、絵を描くことが大好きであった。暇さえあれば、そこら中に色々な絵を描きまわっていた。せっかくタイムカプセルに入れるなら、大人になった自分に見せるなら、へたくそな詩はそこそこに、まずは自分の絵を見てくれ！（でも、せんせい詩をかけというので、とりあえず詩をかきました）、というメッセージが、20余年経過した自分に明確に伝わってくる詩である。

しかし、それと同時に、だったらその気持ちを詩にすればいいのに、と、20余年経過した自分は思うのであるが、当時の自分にはそのような思いつきも文章技術も持ち合わせていないのであった。

なお、当時、特にプールがきれいだったという記憶はない。詩の題材は何でもよかったのである。詩の執筆のために、取り急ぎプールがきれいということにこだわったのかもしれない。とにかく、当時の自分にとって、タイムカプセルにおける詩の位置づけはこの程度のものであった。

さて、貧相な詩をネタにだらだらと駄文を連ねてしまったが、本稿の要点は以下のとおりである。

- ①活字というものは記録に残るので、覚悟して執筆すべきである。執筆者本人はその背景をよく理解できても、他人はそうとは限らない。
- ②コレだと思える本に出会ったら、レンタルではなく、是非購入して手元に置いておくことをお勧めする。また、それほどでもない本や文章であっても、手元に置いておくと、いつか読み返したときに、新しい発見があったり、当時の自分では理解不能であったことがスッと理解できたりして、きっと役に立つ時が来る。文字は財産です。（図書館だよりのネタに困っていたらこんな詩でも役立った？）
- ③本稿タイトルがズバリ「図書館だより原稿」というあたりから、現在の苦痛ぶりを察して頂きたい。
(おいかわ・やすし)

図書委員会から

ブックハンティング について

3年M組 山下 徹



図書委員になると良い事が二つある、と思う。一つ目は新着図書紹介を書く事により確実に本を図書室に入れることが出来る。もう一つはブックハンティングで、1万円以内なら好きに本を選ぶことが出来る。どちらもこのように文章を書くことが無ければもっと良いのだろうけど…。

それはそれとして今回の本題は先ほど述べたブック

ハンティングである。テスト最終日、皆がテストから解放されさあ帰ろうかという時にわざわざ1時半まで学校に残り高専バスに乗る。これがブックハンティングの参加方法。いたってシンプルではあるが帰ることの出来る時間が普通授業のときよりも遅くなるため少々面倒である。とはいえ読みたい本のためである。背に腹は変えられない。結局は、今年度2回あったブックハンティングの両方に参加することとなった。この文章はその報告のはずだが、余計なことを書いていたせいで予定量の500文字程度まで後少ししかない。仕方が無いので一言でまとめたいと思う。

「ブックハンティングは面白かったです。本が好きな人はぜひ参加してください。」

(やました・とおる)

『問題な日本語』

北原保雄編 (大修館書店)

皆さんは正しく日本語を使えていますか？
本書はただ単に「この言葉がおかしい」と指摘するだけでなく、なぜ、どこがおかしいのかを丁寧に解説してくれています。外国の言葉を学ぶのも大切ですが、まず美しき自国の言葉を正しく使えるようになりたいと思う方は御一読ください。

機械工学科教員 吉永 慎一

『弟』

石原慎太郎著 (幻冬舎)

この本は著者である石原慎太郎が自分の弟について書いた本です。弟の裕次郎は多くの人に愛されていました。だから裕次郎が死んだ時には多くの人が涙したはずですが、そんな裕次郎についてもう一度思いだしてみませんか。

1年4組 谷本 良介

『そのときは彼によろしく』

市川拓司著 (小学館)

映画で有名な「いま会いにゆきます」の作者・市川拓司の最新作です。中学校時代、仲の良かった3人組の15年後の再会の話です。偶然ではなく、運命とも呼べる出会いの数々は全て誰かにつながっていて、重力のように引き合っている。それが、友情、親子愛、仕事仲間、愛情…様々なカタチでつながっていると感じる一冊です。読み出したら一気に読んでしまつ本なのでぜひ読んでみて下さい。

4年C組 立石 裕美

『脳の中の幽霊』

V.S.ラマチャンドラン(著)、
サンドラ・ブレイクスリー(著)、
山下篤子(翻訳) (角川書店)

脳科学の分野ではとても有名な本です。著者は手足を失った患者が襲われる不思議な症状から、人間の脳の機能を解き明かしていきます。著者が我々と同じアジア人であるということも驚きました。興味のある方は、原文を読むのも一興かと思えます。

制御情報工学科教員 由良 諭

『かわいい子には旅をさせるな』

鷺沢萌著 (大和書房)

旅好きの著者のエッセー集です。読んで楽しくなったり、笑えたり、異国文化についての知識が増えたり、そんなエッセーがいっぱいです。1つあたり6、7ページなので好きなところから気軽に読めます。これを読めば、あなたも国際的な感覚を養えるかも。

4年S組 岸 寿子

『知識ゼロからの敬語マスター帳』

弘兼憲史著 (幻冬舎)

コミック『島耕作』シリーズの著者がフレッシュマンに贈る一冊。社会に巣立つ卒業生、修了生ならびに進路決定を控えた4年生に一読を薦めます。諸君はビジネス社会の一員となり、その場に応じた円滑なコミュニケーションができるだろうか？社会人の会話術を垣間見てみよう。

制御情報工学科教員 平岡 延章

現代人の“心のすきま”が読める本 『欲望と禁忌の心理分析』

高田明典著 (芸文社)

本文P82からの引用

「劣等感の克服」の特効薬は優越感である。

俗にいうエリート学生の挫折への対処方法は、その教科や学問体系を“くだらないもの”であると無視することであり…

たとえば、理科系進学者のエリートは古文や漢文の理解が全くといっていいほど欠落していますが、そのことで、彼らが挫折感を抱かないのは古文や漢文をくだらないものであると思うことができるからで…

たとえば、古文が全く理解できない人を例に挙げましょう。

彼は、古文をくだらない学問分野であり、そんなことに興味を持っている奴はバカなのだと考えます。「古文ができる人間=バカ」という図式を信じていることができれば、彼は、圧倒的な優越感に浸ることができます。

大切なことに気づかせてくれる一冊です。

電気情報工学科教員 村上 幸一



から

◆図書館に新しく入れた本



『「構造とその形態」アーチから超高層まで』

ローランド・J・メインストン著、
山本学治・三上祐三訳 (彰国社)

本書は人類の数万年にわたり、建築や橋などの構造物が歴史の流れの中で、また用途と形態とのかかり合いの中で、いかに必然的に発達してきたかということを明快に示している。しかも、数式は一切用いず、すばらしい写真や図をふんだんに使っているので、教養の書として読まれる本。

建設環境工学科教員 松原 三郎

『できればムカツかずに生きたい』

田口ランディ著

この本は、筆者が体験したことについて色々書いてある。他人から見てみればひどい人生…何より昔の筆者から見てひどい人生だった。だが、少し耳を傾けてみれば、『そう悪いもんじゃない』と思えてくる。そういうことを気がつかせてくれる一冊。

1年3組 西郷 里菜

『ゲーテ全集 第二巻 ファウスト』

ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ著 (人文書院)

ドイツのファウスト伝説に基づく作品。知識と行動への限りない意欲を持つファウストは悪魔と契約を交わす。悪魔が彼の心を満たし「時よ止まれ。お前は美しい。」と言わせれば彼は悪魔に魂を売り渡さなければならない。様々な世界の遍歴の末に、ファウストは何に心を満たされるのか。

3年C組 大前 貴紀

『終わりのクロニクル1~4(全て上下巻あり)』

川上稔著 (電撃文庫)

かつて世界は、平行して存在する10個の概念世界と戦闘を繰り返していた。その戦争に勝利し、全てが隠蔽されてから10年…

ここから、物語は始まる。

3年M組 上池 奈央

『頭のいい人、悪い人の話し方』

樋口裕一著 (PHP新書)

あなたの周りのバカ上司たち、こんな話し方では異性に嫌われる、人望が得られない話し方など、実例を基に傾向と対策を練っている。失礼ながら、多くの人の顔が浮かんでくる。そして、自分に該当する内容に出くわすと身の竦む思いがする。ある意味痛快ではあるが、問題は、元々性格を根源として発生していると思われる言動が、自身の戒めと努力によって変えられるものかどうかである。

電気情報工学科教員 原園 正博

『頭のいい人、悪い人の話し方』

樋口裕一著 (PHP新書)

この本は、大まかに言えば論理的な人と、バカな人の、その話し方の違いを実例を使って説明し、対策を紹介しています。ただ、巷にあふれている実例を使っているため自分や知人にあてはめてしまい、読み終わった後共感できる人と反発する人とが分かれてしまうと思いますが、是非一度読んでみて下さい。

3年E組 石川 晋也



から

◆図書館に新しく入れた本

『日本語力と英語力』

齋藤孝、齊藤兆史著 (中央新書ラクレ)

本書は語学教育の達人二人による対談であり、「算数も国語であり、音読も学習できる」、「英文和訳・和文英訳は優れた思考訓練である」など、示唆に富んだ指摘が興味深い。学生や語学教師、そして国語教育・英語教育に意見する立場にある人にとって必読の書と言えよう。私は本書を読み、日本人の読解力低下は起こるべくして起こったと妙に納得してしまった。

一般教科教員 寺西 雅之

『チャイナ・フラワー 大地に生きる女たち』

欣然著、上田クミ訳 (集英社)

宿命に翻弄される中国人女性の実話。自ら命を絶った少女、文化大革命の名のもとに引き裂かれた子供たち…

元南京のラジオ司会者の取材を通じて明らかになった悲しい真実。読む価値アリ!

4年S組 岸 寿子

『モチーフ100からはじめるビーズ刺しゅう NHKおしゃれ工房』

田川啓二著 (NHK出版)

スパングル、金モールなど様々な素材を使用して立体的に仕上げ、他の刺繍にはないインパクトを持たせるオートクチュールビーズ刺繍。シンプルなものからちょっと高度なものまで、100以上のモチーフを紹介しています。手持ちの小物に小さなビーズ刺繍を入れてみよう。まずは小さな作品でも、という人にお勧めですよ。

4年E組 山本 聡美

『百年の誤読』

岡野宏文、豊崎由美 (著)

文学史に残っている本や教科書にのっている文章が優れたものばかりとは限らない。これは20世紀の100年間に出たベストセラーについて2人の著者が対談した本。ポロポロにけなされている「名作」も多く、これを読めば、世間の評判に流されない自分なりの判断が出来るようになる、といいですね。

一般教科教員 高橋 宏明

図書館から

●新着DVD紹介

トリック 3	黄昏のチャイナタウン	レイジング・ブル	トレーニングデイ
トリック 4	ミッシング	ボーイズ・ドント・クライ	ドクトル・ジバゴ
トリック 5	黄昏	ミザリー	アナライズユー
スパイダーマン 1	ジョンQ-最後の決断-	ワンダとダイヤと優しい奴ら	チャイナタウン
スパイダーマン 2	グリーンマイル	アラビアのロレンス	二重誘拐
ハリー・ポッターとアズカバンの囚人	スリーウイメン	エリン・ブロコビッチ	訴訟
コールドマウンテン	バッドボーイズ 2	招かれざる客	レッドコーナー
ヴァンヘルシング	いつか晴れた日に	未知との遭遇	ブロードキャストニュース
トルク	アバウト・シュミット	恋愛小説家	バイオ・ハザードII
リディック	24 Vol.2	ザ・エージェント	リクルート
ピッチブラック	24 Vol.3	アラモ	ビッグ・フィッシュ
コラテラル	24 Vol.4	テイキング ライブス	許されざる者
ロード・トゥ・パーディション	パンディッツ	ツイステッド	仮面の男
砂と霧の家	愛がこわれるとき	アイ ロボット	キング・アーサー

●ブックハンティング・リクエスト本の紹介

空の中	Add	面白いほどよくわかる 孫子の兵法
アキハバラ@DEEP	砂糖菓子の弾丸は撃ちぬけない	世界の哲学・思想のすべて
魔法使いハウルと火の悪魔	マジナル・ブルー	図解 フランス ラグビーレッスン
アブダラと空飛ぶ絨毯	かりん増血記 1～4	Dear、こげんた
9・11ジェネレーション	薔薇のマリア	好きな女に好かれる法則
トウインクル☆スターシップ 6、7	転生学園幻蒼録	初心者のための大内延介の将棋必勝定跡
ワールドアームズ アルタコード：F 上・下	空の境界 上・下	はじめての基本定石
義経 上・下	フェネル大陸 偽王伝 1、2	あなたのIQがみるみるアップするマッチ棒クイズ
アークマ・デテクール	犯人に告ぐ	リラックマ生活～だからまいにちのススメ～
ずっと、ずっと、あなたのそばに	アフターダーク	司馬さんは夢の中
雨鱗の川	空中ブランコ	翔べ！YS-11
最後の夏に見上げた空は	終戦のローレライ	光ファイバ通信のしくみがわかる本
ドラゴンクルス 1、2	流れよわが涙、と警官は言った	Windowsショートカットキー事典
戦闘妖精・雪風 (改)	おぼえていてね アークイブ星ものがたり	クイズ！その英語、ネイティブにはこう聞こえます
グッドラック 戦闘妖精・雪風	禁涙境事件	はじめて受けるTOEIC TEST パーフェクト攻略
死に花	ランブルフィッシュ	TOEICテスト直前の技術
冥王と獣のダンス	百鬼夜翔 霧が閉じる黄昏	受験英語からのTOEIC Test
新ロードス島戦記 4	やさしすぎる悪魔	平成16年度 電験3種演習問題集
キノの旅VIII	スカイワード 1、2	世界の駄っ作機番外編
R.O.D10	哲学のおやつ うそとホント	プロバガンダ戦「南京事件」
EME BLACK 2	哲学のおやつ 生きると死ぬ	たったひとつのたからもの
EME RED 2、3	予備校が教育を救う	稼くが勝ち
ROOM NO.1301 #3 #4	その時歴史が動いた 1、10	頭がいい人、悪い人の話し方
陰陽ノ京	もっと実感！どんどん目が良くなるマジカル・アイ	雑学 世界の有名人、最後の言葉
かくて災厄の旅ははじまる	韓国の日常世界	キッパリ！たった5分間で自分を変える方法
機動戦士ガンダムSEED 1～5	実験して学ぶ高周波回路	科学技術はなぜ失敗するのか
機動戦士ガンダムSEED ASTRAY 1、2	孫子の兵法入門	

●新着CD紹介

The BLUES：マーティン・スコセッシン制作	クロウフィッシュ・フィエスタ：プロフェッサー・ロングヘア
Bebel Gilberto	リジェンダリー・パフォーマー：ウディ・ガスリー
レインボウ・チルドレン：プリンス	バッハ ミサ曲 口短調：チェリビダッケ指揮
まぼろしの世界：ドアーズ	ケージ：プリペアド・ピアノのためのソナタとインターリュード：高橋悠治
ソングス・フォー・ユー・LIVE！：ダニー・ハサウェイ	コンサートの後のコンサート：ギドン・クレーメル
フロム・バリ・ウイズ・ラブ：スカタライツ	大地の歌：クラウス・テンシュテット指揮
ザ・ベスト・オブ・アーリー・ポップ・マーリー&ザ・ウェイラース	アルフォンシーナと海：波多野睦美歌 つのだかしギター、リュート
ダニー・ザ・ドッグ：マッシュヴ・アタック	管弦楽のための協奏曲：アントル・ドラティ指揮
ヒムズ・オブ・ザ・フォーティナインズ・バラレル：K.D.ラング	スズ虫：P E Z
ハンク・ウィリアムス ベスト・セレクション	ジャズ・ジャイアント：バド・パウエル
ゴースト・イズ・ボーン：ウイルク	サルパドールからの手紙：アンリ・サルパドール
ザ・シークレット・マイグレーション：マーキュリー・レヴ	ジャンゴロジー：ジャンゴ・ラインハルト
レイ・チャールズ スーパー・ベスト	時の歩廊：ギル・エヴァンス
ザ・フィラデルフィア・エクスペリメント：ザ・ルーツ	ジーニアス・オブ・モダン・ミュージック：セロニアス・モンク
ライブ・アット・シティ・ホール '74：パート・ヤンシュ	サムシン・エルス：キャノンボール・アダレイ&マイルス・デイヴィス
y' (最後の警告)：ザ・ポップ・グループ	教育：東京事変
スマイル：ブライアン・ウイルソン	エルヴィス・アルティメット・ゴスペル：プレスリー
ZHIVAGO	PUSH THE BUTTON：ケミカル・ブラザーズ
Let Go：アヴリル・ラヴィーン	

新スタッフ紹介

図書館長 長谷川 隆
 図書係 大石 洋子
 友田 勝子 (夜間担当兼務)
 武内 志保
 夜間担当 角南 有紀
 松村 優樹
 鎌田 卓治

今年から初めて専攻科生が夜間に担当することとなりました。どうぞ気軽に声をかけてくださいね。
 よろしく願います。

このたび、閲覧室の机、椅子が新しくなりました。今までのオモイ感じから明るいものに一新されています。また、図書館だよりに紹介のとおり新しい本、CD、DVDをたくさん取りそろえています。特に本については、だよりに紹介の外、いろいろな分野の本をそろえています。

リニューアルされた図書館をちょっとのぞいてみませんか。

皆様のお越しを新しい設備で新しいスタッフでお待ちしております。

編集後記

国語教師なので文章上達法について聞かれることがあります。私は、とにかく書く機会を見つけて書きなさい、そして、推敲しなさい、ということにしています。『図書館だより』は書く絶好の機会です。書かなければならないとなると、書くネタも何とか見つかるものです。諸先生方、学生諸君、今年度も、よろしく願います。

ところで、4月から夜間等の時間外には学生(専攻科生)にもカウンター業務をしてもらうようになりました。ご連絡します。

(図書館長)